



エコアクション21

環境経営活動レポート

2021 年度



株式会社トーヤ

2021年度版(2021年4月～2022年3月)

発行日 2022年6月8日

改訂日 2022年7月 5日

目次

1	会社概要	P- 1
2.	環境経営方針	P- 2
3.	経営における課題とチャンス	P- 3
4.	環境経営目標とその実績	
4-1	単年度兼中期目標(3ヶ年環境目標(2020年度～2022年度))	P- 4
4-2	活動実績(2021年度4月～2022年3月)	P- 5
5.	2021年度の主要な環境経営活動実績の内容	P- 6
6.	環境関連法規の取りまとめ	P- 7
7.	環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	P- 8
8.	環境経営活動実施体制図	P- 9
9.	環境経営活動の取り組み	P- 10
10.	代表者による全体評価と見直し結果	P- 11

1, 会社概要

(1) 事業者及び代表者氏名

事業者名 株式会社トーヤ
代表者氏名 代表取締役 戸谷 正太郎

(2) 所在地 : 〒480-1131

愛知県長久手市原邸411



(3) 環境保全関係責任者及び環境保全関係担当者

工場長 水谷 彰秀

連絡先: TEL 0561-62-4756 FAX 0561-62-9053

toya@bc.wakwak.com

(4) 事業概要 : 実装治具及びプリント基板の開発・設計・製造・販売

(5) 事業規模(2021年4月～2022年3月)

製品出荷額(年間) 3.07億円

工場延床面積 280㎡

(6) 従業員数 : 20名

エコアクション21対象範囲

全組織・全活動を対象とする



2. 環境経営方針

環境経営方針

基本理念

人も動物である 環境に適応しながら生きていくべきであり 環境に変化を与えてはいけない。この事実に寄り添い環境を守るための製品を社会に提供することが株式会社トーヤの環境経営方針である。

基本方針

- 1 法令を遵守いたします。
- 2 環境を守るための製品を開発してその販売に努めます。
- 3 産業廃棄物の削減 再利用 リサイクルを推進いたします。
- 4 環境マネジメントシステムの継続的改善に努めます
- 5 全従業員に環境経営方針を周知し環境意識の向上に努めます。
- 6 またホームページを利用して広く社会に公開いたします。
- 7 この世に生きるものすべてに感謝して生産活動に努めます。

制定日 平成 18 年 6 月 22 日

改定日 平成 31 年 4 月 1 日

株式会社トーヤ

代表取締役 戸谷 正太郎



3. 経営における課題とチャンス

2021年度

作成者 水谷

	事業者の内部に起因するもの	事業者の外部に起因するもの
経営における課題 (事業上の弱み、問題点等)	<ul style="list-style-type: none"> ・手作業が多くそれなりの技術を要する工程が多いため、自動化が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・顧客からのRoHS、REACHなどの化学物質調査依頼が多く負荷が大きい。 ・複雑な形状の製品が増えており測定に時間がかかる。
経営におけるチャンス (事業上の強み、有利な点等)	<ul style="list-style-type: none"> ・不良を減らすことで生産ロス、廃棄物削減につなげることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・顧客対応の迅速化による信頼確保ができる。 測定工数を削減し、処理量アップ。品質向上により受注量アップ。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて治具を作成し作業者の負担軽減を図る。 ・注文通りの製品ができるように作業手順を明確にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・該当フォルダを作成し材料ごとに管理することで早急な対応ができるような体制を整えた ・複雑な形状の測定を素早く行えるように新たな測定器を導入。

2022年7月5日改訂

4. 環境経営目標とその実績

4-1 単年度兼中期目標【3ヶ年環境目標／2023年度～2025年度】

2022年度計画をもとに2023～2025年度の新基準を策定します。

項目		単位	基準年度 (2022年度計画)	2023年度 計画	2024年度 計画	2025年度 計画
社内管理指標		S	3.2			
エネルギー使用量	総量	kg-CO2/年	21,099.2	21,035.9	20,972.6	20,909.3
	基準年度比	%		▲0.3	▲0.6	▲0.9
	基準年社内管理指標当たり	kg-CO2/S	6,593.5	6,573.7	6,553.9	6,534.2
一般廃棄物搬出量削減	総量	kg/年	1,389.9	1,385.7	1,384.3	1,377.4
	基準年度比	%		▲0.3	▲0.6	▲0.9
	基準年社内管理指標当たり	kg/S	434.3	433.0	432.6	430.4
産業廃棄物搬出量削減	総量	kg/年	285.0	284.1	283.3	280.7
	基準年度比	%		▲0.3	▲0.6	▲0.9
	基準年製品出荷額当たり	kg/億円	89.1	88.8	88.7	88.26
水使用量の削減	総量	m3/年	105.8	105.5	105.4	104.8
	基準年度比	%		▲0.3	▲0.6	▲0.9
	基準年社内管理指標当たり	m3/S	33.1	33.0	32.9	32.8
コーティング不要な新材料での新規顧客数(化学物質削減)増加		件	34	34	34	34
鉛フリーデップパレットの新規顧客数増加 *1		件	34	34	34	34
社内改善件数		件	16	18	18	20

・化学物質(PRTR)対象物質の取り扱いはありません。

・電力排出係数=0.486Kg-CO2/kwhを使用(平成28年中部電力の排出係数)

・小数点は第1位までとする。

*1 鉛フリーデップパレットとは、電子部品のはんだ付け自動ラインで使用するツールです。

製品の不具合が減少し品質を安定させます。

作成日 2022年5月31日 水谷

4-2 活動実績(2021年4月～2022年3月)

項目	単位	2020年4月～ 2021年3月 計画値	2020年4月～ 2021年3月 実績値	評価	達成状況コメント
エネルギー使用量	Kg-Co2/年	21,163.0	19,450.3	○	今年の寒冬のにより足元用のヒーターを導入した為 電気使用量は増加している。 コロナ禍で外出、出張が計画年の3分の1まで減少し、2項目合わせた二酸化炭素排出量は減少となった。
	基準年社内管理指標当たり kgCO2/S	6,634.0	6,335.0		
一般廃棄物搬出量	kg/年	1396.9	580.1	○	基準年度の2019年に機密書類を整理し、その後のペーパーレス化も進んだため、目標値を立達成することができた。
	基準年社内管理指標当たり kg/S	437.9	189.0		
産業廃棄物搬出量	kg/年	287.6	337.7	×	社内で加工する切削加工が増加したことで金属ごみが増加し、産業廃棄物増加に繋がった。
	基準年社内管理指標当たり kg/S	90.3	110.0		
水使用量	m3/年	106.4	92.4	○	コロナ禍を機に手拭きタオルを個々にしたことにより、洗濯回数が減った。また、日頃から節水意識をもって通常業務にあたることにより、目標達成に繋がった。
	基準年社内管理指標当たり m ³ /S	33.4	30.1		
コーティング不要な材料での新規顧客数(化学物質削減)	件	32	20	×	コロナ禍で思うように営業活動ができず、新規顧客獲得につなげることができなかったことも要因の一つであるが、現ユーザーに関してはコーティング不要材料への切り替えが終わりつつ有り達成には至らなかった。
鉛フリーディップパレットの新規顧客数	件	32	9	×	コロナ禍で思うように営業活動ができなかった事、電子部品の世界的な不足により部品実装に使用される弊社のパレットも影響を受けた。
社内改善件数	件	14	32	○	従業員への周知を積極的に行い、小さな改善も報告してもらうよう呼び掛けた。

5. 環境活動計画と評価及び次年度の取り組み内容

(取組期間:2021年4月~2022年3月)

	環境経営目標	活動 -具体施策-	責任者	評価	コメント	今後(次年度)の取組内容	
1	電気使用量の削減 <small>(主な二酸化炭素の排出量は電気の使用によるもののため、活動目標は電気の使用量の削減とします。)</small>	日中、不要時の消灯、電源OFF	二村	○	ほぼ計画通りに実施できた	継続	
		照明のスイッチを小エリア毎に設置し使用しないエリアの消灯を実施。		○			
		照明のスイッチ付近へ「使わないときはスイッチをOFF!」のメッセージ貼付け自覚を促す。		○			
		サーキュレーター導入し空気の循環を良くし、冷暖房効率を上げる。		○			
		室温管理(冷房27℃ 暖房22℃)とし、カーテンの使用により室温上昇を抑える		○			
		OA機器の省エネモードの設定。		○			
		エアコンの使用開始時期前に、フィルターの清掃。		○			
		コンプレッサーの空気もれの点検、修理。		○			
		屋休み時の非稼働装置及びコンプレッサー停止。		○			
2	廃棄物排出量の削減	機密書類を含む廃上質紙は溶解処理にてリサイクル。	戸谷(幸)	○	ほぼ計画通りに実施できた	継続	
		裏紙をメモ用紙に使用		○			
		パレット材料の端材の有効活用。端材を利用して試作部品を製作。		○			
		古いパレットの金属部品を再利用させて頂き省資源化。		○			
		形のくずれた使用済み段ボールや使用済み緩衝材はカットして梱包緩衝材として再使用。		○			
		当社で発生する産業廃棄物は全て産廃処理業者の引き取りとし、マニフェスト等の必要書類も確認・保管。		○			
		古紙や段ボールなどはリサイクル業者に持ち込み		○			
					(変更)リサイクル業者へ委託		
3	水使用量の削減	蛇口付近に「水を大切に」を掲示し、使用量を減らす意識を高める。	二村	○	ほぼ計画通りに実施できた	継続	
		洗濯回数を週に3回から2回にまとめた。		○			
		月一回の漏水点検。		○			
		掃除の際に溜めた水を使用し、節水。		○			
4	鉛フリー用はんだ付けパレットの販売拡大	高性能で品質の安定した製品により、顧客生産品の品質が向上し不良が減少する製品設計の提案。	水谷	○	ほぼ計画通りに実施できた	継続	
		コーティング不要な新材料の新規受注推進。		○			
		消耗部分に金属の使用を提案し、より永く使用できる設計提案。		○			
5	社内改善 ヒットカードの活用 (抜粋)	納品時の事務手続き手順変更	水谷	○	作業時間短縮	継続	
		システム各項目ごとのマニュアル作成		○			作業標準化、効率化
		梱包目標		○			ゴミの削減につながる
		手動圧入機の安全対策		○			作業時の安全対策
		加工用押さえの改善		○			加工不良をなくす効果が見込める
		在庫品の購入数量の見直し		○			仕入れコストの低減

1) 取組期の評価は2021年4月から2022年3月までの評価である

2) 評価判定は○・△・×の3段階で行った

作成日 2022年5月31日 水谷

環境関連法規の取りまとめ

当社に関連する法規等は、以下の通りである。

フロン排出抑制法
廃棄物処理法
自動車リサイクル法
騒音・振動規制法
消防法

以上は、当社における製品製作作業工程上で発生しうる現象・効果または、発生する廃棄物等の副産物に関する法令にあたり、当社が遵守すべき事項である。

2022年3月30日 戸谷 正太郎

<当社で使用する消防法指定の危険物>

危険物の種別	当社使用の溶剤一覧
第4類 第4石油類	Mobil Vactra (オイル) 18リットル

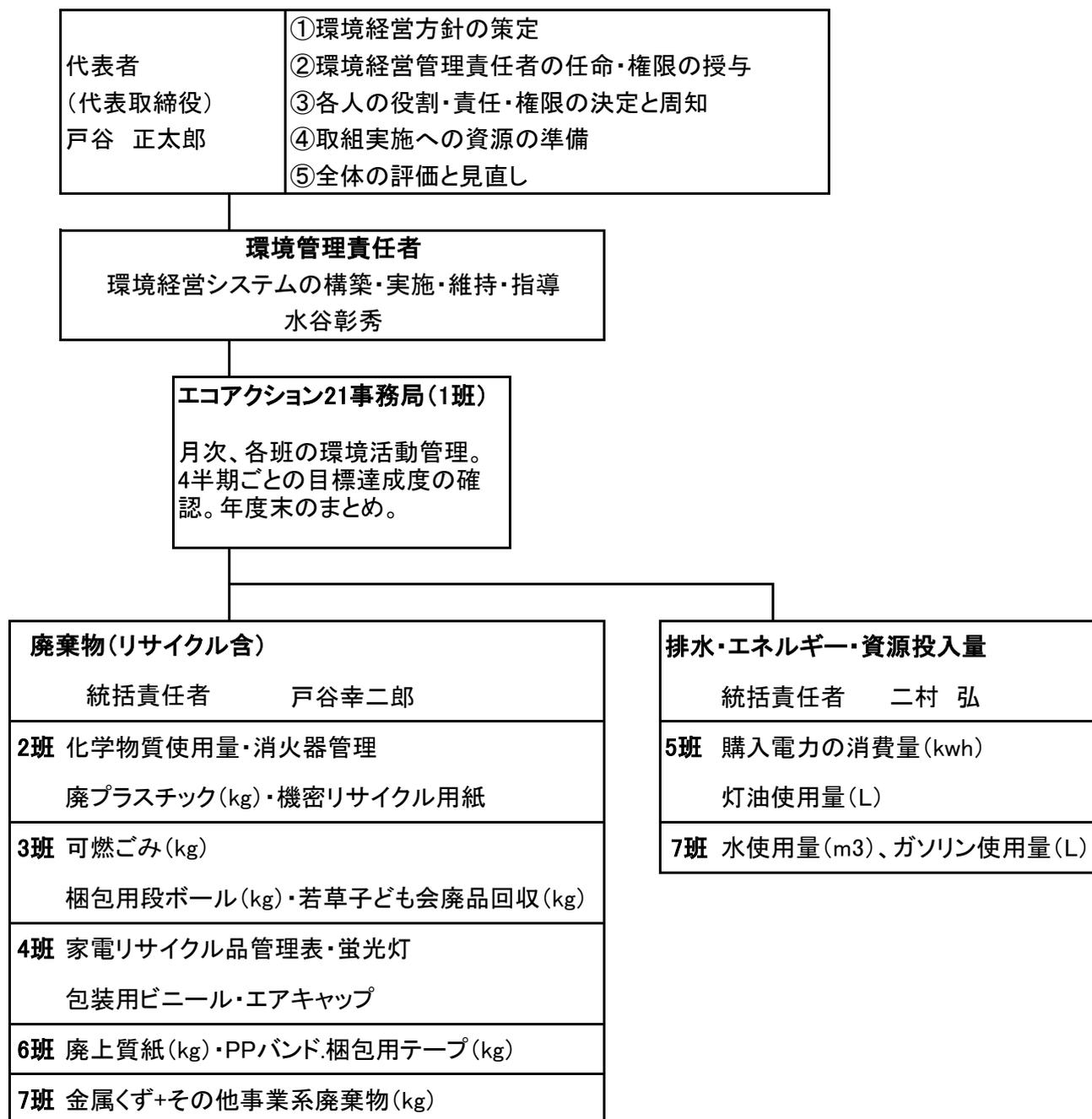
<PRTR法> 対象物なし

6, 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

当社が法定義務を受ける環境関連法規の遵守状況は、
2021年3月に法令順守評価表にまとめ確認した結果、違反はありませんでした。
また、外部コミュニケーション記録簿にて、社外との情報交換の記録を保管しています。

なお、関係当局よりの違反等の指摘は過去5年間無く、訴訟等もありません。
利害関係者、近隣からの事業運営に関する苦情もありませんでした。

7. 環境経営活動実施体制図



認証・登録の適用範囲

住所: 愛知県長久手市原邸411

関連事業所: なし

活動: 実装治具及びプリント基板の開発・設計・製造・販売

* 当社の従業員は、必ずエコアクション管理班(1~7班)のいずれかに所属し、提案をして削減に努める。
 月単位の投入量または廃棄量をチェックし、記録に残す。

作成日 2022年5月31日 水谷

8, 環境経営活動の取り組み

地域貢献活動として、定期的に地域の清掃を行っています。



社員の声

- * 朝の清掃活動は、地域の方と挨拶ができたり、周辺状況の変化にも気づけ、気持ちの良いものです。
- * 清掃活動の傍ら、避難場所への誘導など防災確認もすることができます。

9, 代表者による全体評価と見直し結果と指示

代表者による全体評価と見直しを 2022年7月5日に実施し、下記の結果となりました。

	項目	見直しの有無	評価コメント(指示事項)
1	環境経営方針の新設	無	現時点で環境経営方針は変更しない。
2	環境経営目標	無	現時点で活動目標は追加しない。
3	環境経営活動計画	無	現時点で環境経営活動計画は変更しない。
4	実施体制	無	変更なし
5	代表者による全体の評価		<p>コロナ渦の常態化が長く続き、さらに変異株も蔓延する社会情勢の中、感染対策を徹底して実施し、社内感染はゼロを実現できました。そのため、エコ活動への影響はほとんど無く実施することが出来ました。業務への影響はあったものの、前年と変わらない程度に売上が回復し影響は軽微でした。</p> <p>今年度はコロナ渦からの脱却による経済回復が期待されている中、いまだ感染者数が減らない現状でもあることから、気を緩めることなく感染対策を実施し、エコ活動が滞ることなく実施するよう指示します。</p>